

5 仔牛をとりまく環境

仔牛の細菌感染への抵抗力を高めるためには、栄養管理と同時に、ストレスを与えない環境を整えることが重要です。

(1) 換気

仔牛は特に空気の汚れに敏感です。汚れた空気は肺炎の原因となり、成牛になっても心肺機能が弱く十分に能力を発揮できない乳牛になってしまいます。

特に寒い時期の換気は、意識的に行う必要があります。



写真15 哺乳舎にも換気扇は必要

表5 換気の方法

仔牛にきれいな空気を与えるために…	なぜ？
できるだけ親牛との同居はやめる	親牛の牛舎は、仔牛にとってホコリや雑菌、アンモニアなどが多いため (思った以上にきれいな空気が吸えていない)
ほ育舎や育成舎に換気扇を設置する	冬季に窓を閉めていても換気ができるように(写真15)
冬期間でも窓は閉め切らない (最低1日2回程度は窓を開けて、 空気を入れ換える)	換気扇を付けられない場合も、換気は必要

(2) 寒冷対策

仔牛は寒さに弱く、気温13℃以下で寒冷ストレスを受けるようになります。寒冷ストレスがあると成長が遅くなり、病気に対する抵抗力も弱くなります。

寒さを感じるのは、体温を奪われる時です。「寒さを感じさせない」ための寒冷対策は充分でしょうか？(表6)



写真16



写真17

空いたポリタンクを利用した湯たんぽ
(布などをかぶせておくと長持ちする)



写真18

シートや板などで天井を作る
(温かい空気を上に逃がさない)



写真19

たっぷりの敷料は毛布代わり
(仔牛がもぐっている)
下からの冷たさも遮断

厳冬期にはハッチャペン
全体をシートで覆ってやる



写真20

カーフジャケットの利用
(タオルでマフラーも!?)

注意！何度も着せたり脱がしたりしない



仔牛の3方向は板などで囲い、
よこ風やすきま風から守る

できれば日光も利用したい